

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

NPO 2050

理事長 北谷 勝秀

あとに続く世代のために

■ 団体名の由来

「2050」とはNPOの名前として奇妙に聞こえるでしょうが、これは「皆さん、西暦2050年に目を向けて、あとに続く世代のために地球を守ろうよ」という願いからつけられた名前です。1994年に設立され、中国の黄土高原の緑化を図り、世界を大気温暖化から守ること、そして世界の貧困を撲滅し、女性の地位向上・男女間の不平等の是正をするという目的で、アジアでの活動を続けています。

具体的には、中国の甘粛省と陝西省で、中国在来種「沙棘^{サジ}」という乾燥と寒暖の差に強い木を植えることで、黄土高原の砂漠化と黄砂の発生を防ぐ活動を行っています。農民たちを動員して植林をすることで、農民の貧困解消にも寄与しています。沙棘の果実は漢方薬の原料になることから、農民たちのモチベーションが保ちやすく、持続性も期待できます。現在までは、コスモ石油エコカー



中国陝西省モウス砂漠の緑化活動

ド基金と国土緑化推進機構（緑の募金）の支援のもと、毎年、50～60ヘクタールの荒地を緑化しています。

■ 女性の地位向上を目指して

「世界から貧困を撲滅し、子どもたちのために平和な世界を築くには、途上国で貧困のために学校にも行かせてもらえない女兒が教育を受けることがまず必要」という確信から、奨学金制度を設け、女性への教育の普及を図っています。これまでは、インド、パキスタン、バングラデシュ、中国（貴州省）、ネパールの5か国でこの奨学金制度を維持してきましたが、今年からはネパールのみで支援を継続することになりました。

この国では2つの地域でユニークな活動を展開している活動家を支援しています。1人は垣見一雅さんという日本人で、ネパールの中部パルパにもう20年も住み込み、100ほどの村々を回り、貧しい人たちのために見返りを求めず、「無私」の精神で活動している方です。現地では“OKバジ”という愛称で、人々から大変に尊敬され、愛されています。2050ではOKバジにお願いして、向学心はあるが貧困のため勉強させてもらえない女の子を選んで奨学金を付与し、彼女たちが人生における「夢」を叶えるお手伝いをしています。

もう1人は、インドと国境を接するダン地方で女性のため、教育普及のために活躍しているサイニ・チャウダリーさん（女性）です。サイニさんを通じての支援は、この地方の貧困家庭の子女が

人間開発に専心できるようにとシスターホームと呼ばれる「塾」を設け、食・住の心配なく通学できるという活動です。ここの学生はシスターホームで英語とコンピューターの特訓も受けており、すでに2050の支援により15人以上の卒業生が社会人として大活躍しています。

このような2050の奨学金は会員からの寄付により維持されています。奨学金を受けた学生たちは、人生の夢と希望をみたくべく勉強に励み、卒業生の多くは教員、公務員、NGO職員、看護師、など社会の多方面にわたって活躍しています。



中国貴州省の奨学生たち

また、教育を受けただけでは社会参加が難しい途上国が多いことから、女性が収入を得られる道を開く取り組みも行っています。フィリピンでは、農村女性のために、10年間にわたってエリ蚕という野蚕を飼育し、日本の「^{つむぎ}細」の技術を応用して、絹のスカーフを織る技術指導をコスモ石油エココード基金の支援を得て行いました。これは一昨年に完了し、現在では、現地の女性たちが現地NGOを設立して盛んにスカーフ生産に励んでいます。2050ではその製品のフェアトレードを日本国内で行っています。

日本の国際感覚が不足

世界の経済大国の一つである日本。その国民が世界の平和樹立に貢献しないわけにはいかないと、国内では講演会を開催しています。機関誌「グローバル・ポピュレーション・ブレティン」を隔月で発行し、ニュースレターを年2回発行する

ことで、会員および日本国民に地球規模の問題を訴え、ともに解決法を探る努力を継続しています。

しかし、海外での活動が成果を上げている反面、日本国内での啓発活動はいま一つという感覚が拭えません。これは日本が島国であるという事実に基づくのかもかもしれませんが、どうも国民の多くは地球の将来や子どもたちの安全という問題より、収入や経済活動などの目先の問題により関心があるように見受けられます。これは最近の異常気象や原発の問題への対応からいえるのではないのでしょうか。

今後の具体的な活動内容と方針

今の日本人にとって、さらに将来の日本にとって必要なのは、自分たちは国際社会にとって欠くことのできない一員であるという感覚（国際感覚）と、自分たちの意見を自由に発表できる会話力や語学力です。そのためには、現在のような内向きの自己中心的な風習を改め、世界のために、貧しい人たちのために、一肌脱ごうという気概をもった若い人たちを育てることです。2050ではそのためにスタディツアーを通じて若い人たちを途上国の現実に直面させ、貧困とは、ジェンダー不平等とは、解決法は？ など現場で勉強してもらいます。要請があれば、講師を派遣して日本国内で広く啓発活動を行います。

2050は「子どもと地球の未来のために」、皆が安心して住める将来を築くために努力を続けてまいります。そういう意味で、国民の皆さまのご支援とご鞭撻を心から願うものであります。